

第2回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 平成26年10月23日(金) 13時30分～16時15分
- 2 場所 館山市コミュニティセンター 第1集会室
- 3 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	三澤 智	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
教育関係者	半澤 美緒子	館山市教育委員会 推薦
	石井 誠	国立館山海上技術学校 推薦
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	高橋 實	安房農業協同組合 推薦
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	須田 敏男	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	古橋 博子	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 鈴木久雄委員, 小金晴男委員, 安田憲史委員、三浦英喜委員

4 議題

- (1) 総合計画の策定スケジュールについて
- (2) 総合計画の策定イメージについて
- (3) 計画策定に係る検討材料としての基礎資料について
 - ① 基礎調査資料
 - ② 財政状況
 - ③ 現計画の振り返り
 - ④ 市民アンケート結果（速報値）
- (4) Web アンケートの実施について
- (5) 高校生アンケートの実施について
- (6) その他

5 会議の経過

- ◆ 委員自己紹介（今回から出席した委員：半澤委員、高橋委員、溝口委員）

- ◆ 議事

- (1) 総合計画の策定スケジュールについて
- (2) 総合計画の策定イメージについて

[事務局より説明]

石井（敏）委員：総合計画ですが、館山市の場合は基本構想と基本計画。全国市町村の約7割は、基本構想があつて基本計画、そして基本計画を実施するための実施計画を設けているところが多い状況にある。今までの市からの説明だと基本計画に実施計画も含まれているとの説明だが、財源・タイムスケジュールが入っていないので、基本計画は基本計画として、別途、この審議会に諮らなくても良いが、実施計画も定めたほうが良いのではないかと。

事務局：前回、総合計画の体系については、基本構想・基本計画の2本立てでいくということで決定した。実施計画を別途策定ということだが、基本計画の中に盛り込むような形で、3本立てではなく、2本立てで策定することで考えている。財政的な部分は、実際には次年度になるが、各課から新しい計画に盛り込むべき計画事業の提出を求め、財政当局とのすり合わせを行っていく。

ですので、財政的な部分も踏まえ、実施計画の部分も含めた基本計画を策定していきたいと考えている。

石井（敏）委員：富士見市というところは、実施計画に具体的に金額、スケジュールも入っていて、3年間で、状況の変化が激しいので、1年ごとに見直ししている。実施計画を基本計画に盛り込むのは、実務的にかなり困難かと思う。

事務局：館山市も15年前までは実施計画を作成していた。3年間の実施計画を作り、翌年度予算が成立した段階でローリングするような形で、毎年毎年作っていたが、現実的に単なる作業になってしまったということで、見直しを図ったのが現実。〈資料13〉に千葉県内市町村の策定状況があるが、館山市の場合は、実施計画が無いということで斜線が入っている。他の市町村でも、数団体ということで、実施計画については現実的に作業を多くしているだけだという判断をしているところがある。館山市も15年前にそういう判断をして、実施計画については、当該年度の予算のほうで、各事業の計上をしていくということから、その作業をやめた。今回もそういったところでお諮りしたい。

杉井議長：よろしいか。

石井（敏）委員：はい。

杉井議長：その他ございますか。漠然としたことなので、質問しにくいと思いますが、どのようなことでも結構です。

無いようですので、また途中で気付かれたら、その都度ご質問いただければ結構です。

次に、議事の2番目、総合計画の策定イメージについて、事務局より基本構想の体系についての提案と、皆さんからの基本構想についてのイメージ案を募ることについての提案があったが、これについてご意見ありますか。

質問しにくいところかと思うので、もう少し進んだ段階で質問があったら受けたい。先に進みます。

(3) 計画策定に係る検討材料としての基礎資料について

※ ①基礎調査資料～④市民アンケート結果（速報値）までを一括議題とする。

〔事務局よりの説明〕

【休憩5分】

杉井議長：かなり長い説明がありましたが、これより質疑に移ります。

三澤委員：〈資料5〉の17ページ。(3)の労働関連指標の9番目。「納税者一人あたりの所得」が15市中10位ということは、近隣の市に比べるとちょっと良いということか。どういう立ち位置なのか。近隣の南房総市、鴨川市、鋸南町よりは良いということか。

事務局：資料として順番までを記した資料を持っていないので、後日回答させていただきます。

三澤委員：納税者一人あたりの所得が上がってくれば、市としても若い人が入ってきてやすいということで、この辺が重要かと思うので、資料はください。

田中委員：いくつかあります。

- ① <資料5>の分析結果のところ、近隣都市比較分析の産業などは評価が高かったりしている。そこそこ頑張っている割に潤っていないまちという印象がある。そういう認識で良いのか。
- ② 人口関連指標のところ、「自然増加率」、「社会増加率」の意味を教えてください。
- ③ 16～18 ページにかけて、館山市が10位以下くらいのところの上位3位などの市町村の分析はされているのか。どういった事例があるのか、参考になるかもしれないので教えてください。そのまま館山に当てはまるものではないと思うが、ヒントになるかもしれない。

杉井議長：3点のご質問。

まず1番目が、数値の割には潤っていないのではないかとということ。
これについては、市長ですかね。

市長：私としては、頑張っていると思っている。潤っているかどうかは対象者によって感じ方が違うと思う。田中さんや、周りの方はそう感じているかもしれないが。

田中委員：この資料を見てそう思った。

市長：潤っているか、潤っていないかの判断は、田中さん自身が普段感じていることで、お感じになったことだと思う。そのギャップがあったということだと思う。数字はこうなっているけれど、私が感じているのはそうではない、そういう感じではないですか。人それぞれによってとらえ方が違いますし、どこを基準にするか。例えば、自分が以前に住んでいた市を基準に比較されていたら、財政的にも違いがあるからちょっと違うだろう。これはあくまでも館山市に類似した市との比較なので、それ以外とは違うかもしれない。

田中委員：あくまで私が感じたのはこのデータ上の話。第三次産業就業人口比率、人口一人当たりの小売年間販売額が1位なのに、納税者一人あたりの所得が10位というところのギャップに、コストパフォーマンスの悪さを感じた。

杉井議長：経済観光部長いかがですか。

経済観光部長：田中委員のご指摘のとおり、産業の関連指標が1位を示しているところがいくつかある。市内の地域流通については、非常に頑張っている結果が出ている。ただそれが、先ほど市長も申し上げたが、一人ひとりの所得につながっていない。特に納税者一人あたりの所得などでは、下位を示しているというのが実態としてはある。三澤委員もおっしゃっていたが、ここを伸ばしていくことは非常に大事な切り口、視点だと考える。一人あたりの所得を伸ばしていくことが、幸せを実感するということに繋がっていくと思うので、今後の政策・計画の中にも取り込んでいかなければならない、大きな切り口だと考え

ている。

田中委員：ギャップがあるということは、館山は第三次産業のまちであると結論が出ていたが、そうではない産業の方もいるということと、何がしかの格差があるということになるのかと思う。そこを埋めるための手立てを、市に考えてもらえたら良いと思った。また、どう考えていらっしゃるのか。既にそうされている計画があるなら教えてほしい。

事務局：一般的な世の中の流れとして、ずっとデフレ経済が続いている。一番打撃を受けているのが商業施設。館山には人口の割に商業施設が多いため、売上は高くなるが、利幅という部分ではどうしても下がってきている。そういったところで、非正規雇用も多いので、賃金はこのような結果が出てきているのだと思う。これからは、サービス産業といったところの付加価値をいかに高めていくのか、館山の観光の付加価値をどうやって高めていくのか。これは館山だけではなくて、全国の課題になっている。それが1点。

また、アベノミクスでこれから見ていかななくてはいけないが、少しずつ物価も上がってきているので、次の経済センサスでどのように出てくるのかを注目していかななくてはいけない。

今現状は、売上が下がって、利幅が下がっていて、非正規雇用も多いということで、そういうことが如実に表れていると思う。

それから、類似都市の中に君津市が入っているが、君津には新日鉄があるため、こういう結果になったと思われる。個別の自治体がどうなっているのかというところの厚みを増した細かい分析結果を、後日、皆さんに回答したいと思うが、大きなマクロの流れの中で、そういう状況にあるということをご理解いただきたい。

杉井議長：では次の質問。「自然増加率」と「社会増加率」について

事務局：「自然増加率」とは、出生数－死亡数。出生のほうが多ければプラス、死亡のほうが多ければマイナスになる。その率。館山市の場合は-0.68。死亡のほうが多いわけだが、15市町村の中では6位。良いほうから6位。

「社会増加率」は、転入者数－転出者数。転入超過だったらプラス、転出超過だったらマイナス。

3つ目の質問についてですが、このデータというのは館山市のポジションを調べるということだけで示したものであり、1・2・3位がどこで、どういったことをやっているかというのは、まだ分析していません。次回までに分析して、お示ししたいと思う。

石井(敏)委員：<資料8-1>で、重複事業を除いて400事業ある。計画どおりが、87.8%、221事業、ほぼ計画どおりが130事業というのがあるが、2011年の館山市基本計画の中に重複を除いて400事業あって、計画どおりが87.8%という理解でよ

ろしいか。この1つ1つのデータが、ここには無いが、事務局にはあるということか。

事務局：はい。それをもとに集計している。

石井（敏）委員：そのデータを教えてもらうことはできるのか。

事務局：提供できる。

(4) Webアンケート実施について

〔事務局より説明〕

杉井議長：何かご意見・ご質問ありますか。それでは、次の議題。

(5) 高校生アンケート実施について

〔事務局より説明〕

溝口委員：今の高校生は、遠くから来て寮生活をしている子もいるが、設問で「今住んでいる地域、地元は好きですか」という設問は、どちらを指すのだろうか。不明確なところがあるのでは。

事務局：現在お住まいの地区を指している。海上技術学校では、遠くから来ている生徒さんもいるため、そちらに関しては生徒さんが実際に地元だと感じているところを回答してもらう。基本的には市内在住者、安房郡市内在住者を対象にデータ集計していく。

溝口委員：アンケートの質問の書き方として、答える子どもたちが迷ってしまうのではないか。

事務局：補足説明的なところを加えたい。

(6) その他について

〔事務局より説明〕

事務局：2点説明したい。

1点目。現地視察の実施について提案したい。今後、基本構想の将来像や体系について具体的に審議していただく参考として、現在、市が進めている事業等の現場を、実際に委員の皆様に見ていただく機会を設けてはどうか。具体的には、都市計画道路、船形館山線「(仮称)船形バイパス」事業、新給食センター整備事業、房南地区小中一貫校整備事業等を対象と考えている。希望があるようなら実施したい。11月27日(木)が第一候補日。実施の是非、実施の時期を含めて、皆様のご意見を伺いたい。

杉井議長：日にちは別にして、視察についてのご意見はありますか。

三澤委員：視察するのであれば、懇親会もやったら良いのではないか。

杉井議長：それについてはまた検討させてください。

望月委員：11月27日は社協の福祉大会が文化ホールであって、午前中には終わる。午後からなら大丈夫だが。

事務局：ご都合をお伺いして、参加できる方だけで実施するか、時間を1日にするか、午後からにするか、調整できれば実施したい。

杉井議長：日時については後日調整するが、実施することとする。
事務局より、2番目の議題の説明を。

事務局：小・中学校作文コンクール実施結果について報告。小学生127点、中学生76点の応募、合計203点の応募があった。

小学生・中学生の部それぞれで審査を行い、最優秀賞1点、優秀賞2点を表彰する。入賞作品は公表し、来年度作成の総合計画書への掲載を検討している。

◆ 各委員の「まちづくり」に対する思い・意見について

杉井議長：これからの計画を考えるにあたって、委員の皆様からのまちづくりへの思い、ご意見を伺いたい。

三澤委員：基本計画の委員になって良かった。本当にこれが10年後、20年後の館山市の根幹になる計画と思っている。基本構想体系の種類については、できれば、将来像単独型が良いとのことだが、私の意見としては、お金云々といういろいろなところはすぐできないが、気持ちの豊かさというところを理念として考えられれば良いと思う。だから、理念・将来像という形が良いと思う。

石井（敏）委員：今、基本構想体系の種類について、三澤委員からお話しがあって、おっしゃることは良くわかります。ただ私は、何となくですが、事務局案の将来像のみがすっきりとしていて、わかりやすいかなど。理念も含まれるのかなど。市の目指す方向については、今まではあれもこれもというのがあったかもしれないが、あれかこれか、集中と選択が必要になってくる。私が考えている集中と選択は、環境と福祉ではないかと。環境は、館山はもともと自然があり、河川の浄化や里山保全で、自然を大切にしていく。福祉は、医療環境が全般的に充実しているので、この良いところを伸ばすと同時に、住みやすくするために、福祉環境を整え、定住者を呼び込む必要があると思う。雇用は最も難しいところだが、20年間位成功していないので、皆さんでじっくりと考えていきたい。

望月委員：いつも議員ばかりが発言していて、一般のそれぞれの代表の方が発言できないため、遠慮して話さなかった。前回の会議のときに、アンケートのやり方についてうるさく言ったが、44.1%と回収率が下がった。前回は54.1%。このやり方が良かったのか。枚数も増えて、労力もかかるので、このやり方で良いのか。これが市民の本当の声なのか、本当の答えが出ているのか。

実数は前回より増えているという話があったが、どうせ送付して、アンケートにお答えいただきたいという気持ちがあるなら、それなりの対応が必要

と感じた。

速報のアンケート内容では、転入以前の居住地が、県外がもっとも多くて41.9%。これは大体わかる。どうしてかという、館山には近隣市町に無い自衛隊があるから。そういう転勤の方がいるというのはわかっている。そのような方に対する構想というのも必要。市民と一緒に協働していきましょと訴えていくことが必要。住環境も良くしていきましょという構想にもっていきべき。面積、人口とも（自衛隊の）比率が大きい。暗に示すということではなく、もうちょっと前を出しても良いのかなと思う。アンケートの速報結果からみると、それは隠せない事実だと思う。

森委員：アンケートの件ですが、1,300件くらい返ってきたということで、30~40数名に1人返ってきたので、数的には少ないという気はしない。ただ、年齢的にみると若者の意見が反映されていないと感じる。これから10年先を考えると若い人が頑張れるまちをつくらなければいけない。その辺のアンケートを取らなければいけない。ある面では、高校生アンケートで補足されると思うが、それが1点目。

2点目。基礎調査の中で、大手企業2社が撤退したことで、これからまだまだ影響が出てくると思う。その辺の影響をどれくらい盛り込んで反映させていくのかが大事。その辺をどこかで見られるようなタイミングがほしい。

それから、館山市は昔から一次産業が盛んだが、それが衰退してしまっている。地方創生の中で、一次産業を中心に頑張っているところも増えている。館山は自然豊かな場所であるため、一次産業を今後中核に据えながらやっていくことが、一番安定していくのではないかと思う。もちろん天候に左右されるが、高齢者の知恵と、経営者と若者とをミックスする形でうまくやるのが、若者も定着する。直接売れるようなシステムを作ればもっと利益率も上がってくる。いろいろな工夫を考えていければと思う。

半澤委員：本日の議事は、館山市の実情を知ることになり、とても参考となり、勉強になった。

まちのイメージで一番大切なのは、市民が自分のまちを愛し、自分たち自身がまちづくりに参加することだと考える。私は音楽関係なので、文化面を通じて、文化面の環境を整え、教育委員もやっているの、子どもたちの心の豊かさ、情操面といったことにつなげたい。また、生涯学習で、高齢化社会になるので、ここに住んでいる人たちが、文化活動、スポーツ活動を通じて、自分たちの生活が豊かになって、住みやすくなるということをイメージとして考えていきたい。そのためには、本日の議事にもあったことが問題になっていると思うので、イメージだけではなく、実際にこういったことも絡めてやっていきたい。

石井（誠）委員：学生時代を除き、職業を持ってから、函館10年、岩手県宮古市10年、愛媛県に5年、静岡県に5年住んでいた。そして、仕事で館山に戻った。なぜ館山に戻ってきたかという、まだ仕事柄、こういう形で戻ってきた。

子どもの作文を読んだが、若い子が館山の豊かさを感じている作文に非常に勇気づけられる。子どもが豊かさを感じるということに将来性を感じる。我々の年代にとって非常にありがたいと感じる。豊かさとは、若者にとって雇用があるとか難しいことがあるかもしれないが、“豊かさを感じるまちづくり”が館山の一番のモットーであるべきではないかを感じる。豊かさの中には自然もあり、経済的なものもあるでしょうが、子どもが“豊かに感じる”ということは館山市民の誇りではないかと思う。

高橋委員：それでは2点ほど。

まず、1点目。一市民として、館山市の財政が非常に厳しいということを聞いていたので、金丸市長はじめ、市の皆さんにより、これだけ財政を立て直したということに敬意を表する。

私どもは第一次産業、農業です。戦後を支えた大変な産業ですが、組合員の皆さんは高齢化している。農協でも3年に1度、農業振興計画というものを策定し、組合員の皆さん、総代に諮り、実行している。私たちが今回のこの計画に全面的に協力していきたい。

原委員：館山市の将来を考えるのに大切なのは数字だけではない。数字ばかりを追って行くと、数字の多いほうが偉い、強いとかそういう話になる。先ほども話があったように、もっと自然だとか、情緒、教育、文化、伝統をしっかり持っている地域だと思う。それをしっかり伸ばさないと、大手が入ってきてひっくり返したり、給料が高いからあちらに行きましょうなどと、どんどんなると、余計にこの地域が廃れていってしまうと思う。しっかりと地域に育ったものを脈々と受け継ぐような計画をお願いしたいと思う。

須田委員：一つだけ。若者が住めるようなまちをつくる。私どもの会社でも、学校を卒業するとみんな都会に出て行ってしまふ。それは何故かと聞くと、職場が無いからという意見が多い。若者が住めるようなまちを目指すということをお願いしたい。

吉田委員：産業のほうの高齢者福祉に携わっている立場で参加している。日々の業務で、地域包括ケアシステムを作るというところで業務をしている。先ほど、半澤委員のほうから話があったように、視点は違うかもしれないが、住民の皆さんが、自分が住んでいるまちという捉え方をして、一人ひとりが自分が住みやすいまちをつくっていくという、コミュニティになると思うが、まちづくりを考えられる、そういったまちをつくっていったら良いと思う。

石井久委員：町内会連合会の関係で考えたのが、毎年、市に提出する人口動態を調べる

が、確かに世帯数は増えているが、人口は年々減っている。人口の減少に歯止めをかけるような施策、雇用の充実が必要。人が来てくれれば良いと考える。

鈴木（正）委員：福祉関係の代表ということで話をさせていただく。人口減少や少子高齢化はどこの地方でも問題。国としても地方創生が大きな問題で、地方にぶら下がってきている。そういう点も考慮しながら、福祉、少子高齢化をもっと重点的にやったら良いのではと思う。

先ほど、アンケートの件もあったが、もっと若い人の意見を聞いたほうが良かったのではないかという感じがする。確かに高齢者も必要ですが、これから10年先を考えると、アンケートでは高齢者の回答が多く、若い人の回答が少なかったのが残念に思う。今後、アンケートを取るときにはそういう面も考慮してほしい。

古橋委員：総合計画のスケジュールの件。27年度の4月5月で懇談会の実施とある。総合計画策定に懇談会はどのように活かされるのかというところで、時期、持ち方が気になる。

アンケートは数字で捉える部分が多い。例えば、出産・子育て支援で重要な施策というところに、急な病気に対応できる小児医療体制の充実とあったり、子育てしながら働きやすい職場環境の整備とあるが、小児医療の充実となると、「それだけを求めているのか」となるが、実際のところは、子育て中の家族をみると、子供が急病になったとき、その病気に対して親自身の判断が難しくなっている単独世帯だったり、「明日の仕事をどうしよう」ということだったり、緊急の場合でも、小児科の先生が必要となるのではないか。そうすると、このアンケートは傾向を掴めるが、1人の生活者にスポットを当てて、このことをどう捉えるかという見方をしていくことが重要ではないか。基本計画、実施の場面では細分化されると思う。細分化されればされるほど、別のものになっていく可能性がある。先ほど、半澤委員さんからもお話があったように、市民がこれにどう関わるのか。市民自身のものにしていくというときに、言葉としては「市民協働」というものが出るが、必要なときに市民が引っ張り出されるのではなく、市民が自らこのことを捉えられるような場面をどうやって作っていくかということもすごく重要で、これが実施されることが、自分たちの子ども未来につながると実感を持てるようになるのではないかと思う。

田中委員：先に質問して良いか。＜資料7＞に戻るが、台所事情の中で、ダッペエの予算はどこに入っているのか。

総務部長：予算の種類は目的、性質別と説明した。商工の中に観光関係の予算が入っている。

田中委員：観光振興事業に入っているのか。

市長公室長：観光関係でホームページに出ていると思う。主要事業としては、ここには

載っていない。

経済観光部長：経費等について、詳しくは後ほど説明したい。

田中委員：私は移住者だが、息子が先週、1歳になった。私にとってここは故郷ではないが、息子にとって将来、帰ってきたくなくなったら、帰って来られるまちであってほしいというのが私の願い。彼にとって愛すべきまちになると良いというのが私の願い。私自身は彼が18歳になったらむしろ出て行ってほしいと思っている。新しいことを取得してきてほしい。全ての子どもたちについて思うことだが、出て行きたければ、出て行けば良い。帰って来たくなくなった時に帰って来られるまちだとか、外で得た何かを持って帰ってきたら良いと思う。ここにずっと居続けることを望むことは考えていない。子供たちに18歳以降も定住させるためにはというようなことは考えていない。子どもたちが帰って来たくなくなるまちであったら良いなと思う。館山がおもしろいことになっているとか、そういったまちにしていければ良い。そうすると、全方位型のプランではなく、何かに特化したプランにしたほうが良いと思う。前回、他のまちのスローガンを見ていると、響きの良い言葉ばかりが並んでいて、全方位型という感じがすごくなる。完璧ではない部分も受け入れて、何かに特化していくという方向性にするのはどうかと考えている。これからの時代はエッジの立っている方向にしていくほうがおもしろいまちになると思う。住んでいることが良かった、暮らしていることが自慢になるまち、インナーモチベーションの向上に繋がると思う。可能性を感じるまち、循環型のまち。外よりもまず、住んでいる人がワクワクする楽しいまちになれば良いと思う。最近、印象に残ったことがある。高校3年生の市内に通っている娘さんがいる方の話を聞いたら、彼女はここを出て行くが「帰って来たくない」と言っている。自衛隊の方々と話す機会があったが、私が移住してきたというと、「なんで!？」と言われる。「なんで?」と言われることが、「なんで?」という感じだったのだが、ここにずっといる方たちは魅力をわかっていない人がいる。自衛隊の方は転勤が多いので流れていく人たちだと思うが、中には館山が気に入って、家を購入して定住する人もいたので、その人たちに届くようなプラン、目を向けてくれるようなプランになっていくと良いなと思う。

溝口委員：アンケートは自分で眺めているだけではなく、このように説明をしてもらうと、なるほどと思うところがいっぱいあった。ご意見にもあったように、高齢者、年配の方の意見が多いので、もう少し若い人の意見が聞きたいと思った。自然が豊かで、暖かい、住みやすい、ずっと住みたい、満足度が高いという意見が多いのは、地元の人間として嬉しい。皆さんが良いと思っている地域の特性をそのまま活かした魅力あるまちづくりが必要。

もう一つの大きな問題としては、皆さんが言っていたように雇用の問題。若

い人は「住みたいが、住めない」のは「仕事するところが無いから」、というところが大きい。企業誘致、大型施設を入れてというよりは、長い目で見て、第一次産業を頑張って盛り上げるのが一番地域に根ざした形だと思う。満足度と重要度の表を見ても、雇用が左に突出していたので、そこを重点的に考える必要があるのではないか。

杉井議長：皆さんから参考になるご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。次回から、皆さんのご意見を反映させていきたいと思う。

私からの提案だが、この会議は館山市にとって一番重要な会議だが、欠席が何名かある。欠席した場合の取り扱いですが、各機関の代表者に来ていただいているので、代理人を出してもらうのか、あるいは欠席は仕方が無いと考えるのか。その辺を事務局で検討してほしい。また、私の席の位置ですが、非常に居心地が悪い。質問の橋渡しをするときにやりにくいので、反対側の位置にしてほしい。全体を見渡しながらか進めたいのでよろしくお願いします。

事務局：市民アンケートの結果については、市のホームページや広報等で報告し、幅広い方から意見をいただくような機会を設けていきたい。

基本構想の体系については、市民にわかりやすい・市民と共有できる計画づくりということで、将来像と理念を一体化させた事務局案で進めさせていただきたい。改めて、委員の皆さんから意見・提案をいただく案内を送付する。

現地視察については、実施するということが決まったが、候補日を何日か提示し、調整したい。

次回の審議会の開催日は、平成 27 年 1 月 26 日（月）の開催を予定している。

以 上